



教育目標の達成に向けたシステムの構築

○ 学校の教育目標の達成は、学校経営の主たるねらいです。

○ **全教育活動が教育目標の達成に向けて営まれるシステムを築くことは、揺るぎない経営基盤となります。**

以下に、一つの実践事例を紹介します。(参照：第171号 別紙 グランドデザイン「教育目標を中核とした資質・能力の育成」)



○ 学校には、教育目標のほか、学年目標や学級目標があります。目標相互の関連性や学年ごとの系統性については、十分に図られていないのが一般のようです。

別紙の実践事例では、**学校が教育目標を基に学年目標を設定することで、学年進行に沿って教育目標の達成に向かうシステムを構築**しています。学年主任は、年度当初に学年目標を設定する必要がなく、経営方針の考案に力を注ぐことができます。

○ 学級目標は子供が知恵を出し合い、話し合っで決定します。そのことが子供主体の学級づくりに生きて働くからです。実践事例の当該校には学級目標はなく、代わりに学年目標の達成に向けた**「学級スローガン」**を子供の合意により定めています。

○ 当該校では、**教育目標の項目ごとに学校として育成する資質・能力を設定**しています。入学式をはじめ**全教育活動の実施起案の冒頭に「グランドデザインとの関連」として、主に育成する資質・能力を必ず明記し、実施後にはその定着状況を中心に評価を実施**しています。

不透明な経営環境

コスモ石油社長 中山善郎

不透明な経営環境の中で重要になるのはリーダーシップ。未経験の事態だからといって適切な対応ができないようでは経営者失格です。

冬がくるなら冬支度をせねばなりません。父親がストーブもオーバーも用意できないなら、子供は凍え死んでしまいます。

出典：「成功への名語録」(講談社編 講談社)

※ 現代は、経営者のリーダーシップが問われているといえましょう。